

## 編集の視点で地域の魅力を発信

### 「エディット KAGAMIGAWA」第5回講座

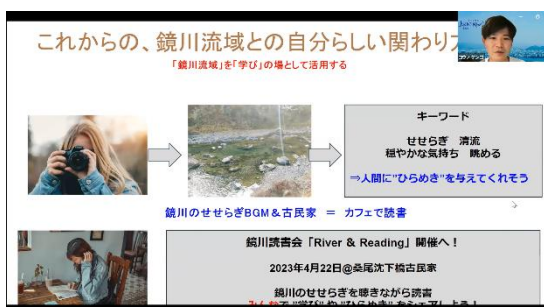
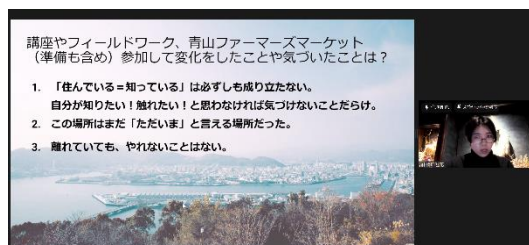


2月28日(火)、「エディット KAGAMIGAWA」の最終第5回講座をオンラインにて開催しました。受講生11人が参加し、今後の高知市や鏡川流域との関わり方を考え発表しました。



はじめに、前回2月12日(日)に出店した青山ファーマーズマーケットの振り返りを行いました。写真を見ながら当日の様子を思い出し「学生時代の文化祭のようで楽しかった」「準備が忙しかったけれど、関わりしろを考える大事な時間になった」などの感想が挙がりました。

その後、受講生は一人ひとり、講座を受講したきっかけや前回までの活動を振り返りつつ、今後どのようなかたちで高知市や鏡川流域に関わっていくかを考え、発表しました。参加できなかった受講生のうち2人は事前に資料を作成し、事務局スタッフが代読、あるいは発表風景を録画したものを講座内で流すなどして、発表に代えました。



受講生の一人である河野健吾さんは、講座を受講する中で「川のせせらぎを聞きながら本を読む読書会をやってみたい」と考えてきました。高知市内在住者向け講座「高知・鏡川 RYOMA 流域学校」の第1期生であり、鏡川沿いの古民家に暮らす林明保さんの協力を得て、4月にイベントを開催予定です。講座間のつながりも生まれ、今後の展開への期待が高まります。



オンラインだけでなく、現地フィールドワークや青山ファーマーズマーケット出店で直接顔を合わせて鏡川への思いを醸成してきた受講生同士。仲間の発表を聞いて「講座で得たことをうまく言語化していて勉強になる」「楽しい企画が生まれそう」など、チャット欄での交流も盛り上がりました。

発表に対して、メイン講師である雑誌『ソトコト』編集長・指出一正さんと、メンターである高知出身の編集者・かずさまりやさんが講評を行いました。一人ひとりに丁寧にフィードバックしたことで、受講生は自分らしく鏡川流域と関わり続ける方法を改めて意識したと思います。



今回の最終発表会で、受講生がそれぞれ自分の興味関心や得意なことを通じて鏡川流域との継続的な関わり方を模索していることが伝わってきました。

講座はこれで修了となりましたが、高知市や鏡川流域とのつながりはまだ始まったばかり。受講生同士の SNS も「今後も情報交換、交流していきましょうね」と盛り上がっています。

引き続き、高知市外から鏡川流域への多様なアプローチが展開していきそうです。